合併50周年特別号
令和4年1月

しんりん

No.27

発行／北但西部森林組合　美方郡香美町村岡区和田233-1　☎0796-95-0511

もくじ

- 新年のごあいさつ …… 2
- 北但西部森林組合合併50周年記念式典を開催しました …… 3
- 北但西部森林組合奨学金給付事業の創設 …… 4
- 主伐・再造林事業の紹介 …… 5
- 森林整備センターでは「育成複層林」の造成を進めています …… 6
- SDGsへの貢献 …… 6
- 第4回 日本伐木チャンピオンシップ(JLC)出場に向けて …… 7
- 小代区・村岡区連合自然学校 …… 8
- 森のステーション美方の実施状況 …… 8
- 令和3年度春、秋に山の神安全祈願祭を開催 …… 9
- 林業労働安全研修会を開催 …… 9
- 新職員・森林技士紹介 …… 10
- 森林技術者募集 …… 10
- 令和3年度 但馬森林協議会主催 林業研修会 …… 11
- ウッドショックとは? …… 11
- 木材市況(和田山木材市場) …… 12
- 編集後記 …… 12

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます

代表理事組合長 谷渕 要一

皆様におかれましては、つつがなく新年を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

昨年は一昨年と同様、コロナ禍による一年で、皆様の生活に多大な影響を与えたことと思います。この原稿を書いている時点では感染者数が落ち着いてきたとはいえ、次の波が心配です。このまま、コロナが大きな波もなく終息することを願うばかりです。

林業においては、コロナ禍に対する海外の経済対策の影響による木材需要の拡大と、それに起因する国内の品不足等が重なって、ウッドショックと呼ばれる木材価格の好況が昨年当初から続いています。製材用丸太の市場価格はスギ1万2千円／㎥、ヒノキ2万2千円／㎥(11月時点)であり、一昨年と比べ約5割増しとなっていますが、今後の世界の流通状況によりどのような動きになるか予測できません。木材は国際商品であることを、つくづく実感する次第です。

この影響もあって、木材売上は昨年と比べ好調で、新たな取組みである主伐・再造林についても順調な出材となりました。事業量についても林産加工事業・森林整備事業共に計画どおりに進んでおり、年間半期での決算見込みも当初計画に近いものとなっています。組合員の皆様の御支援あってのことと感謝申し上げます。

さて当組合は、昨年10月1日に合併50周年を迎え、11月6日には記念式典を表彰受賞者のみお招きして記念式典を開催しました。過去の50年という長い間の先人の森林育成への努力には誠に敬意を表する次第です。

SDGsにも明記される持続可能な循環利用の時代を迎えている今、「森林(もり)を守り、森林(もり)を活かし、豊かで強い森林(もり)づくりを目指します」のスローガンのもと、次の50年に向かって新たな一歩の年となるよう、役職員一体となって取組みを進めてまいりますので、組合員の皆様の御理解とご協力をお願い申し上げ、新年のあいさつといたします。

北但西部森林組合 合併50周年記念式典を開催しました

令和3年10月1日に満50歳を迎えた当組合の合併50周年式典を、11月6日に村岡老人福祉センターで開催しました。

本来ならば、組合員の皆様をお招きして盛大に開催すべきところでしたが、新型コロナ感染症対策のため、当組合経営や地域林業振興に功績のあった受賞者の方のみをお招きして、授賞式をメインに式典を開催しました。

また、兵庫県森林組合連合会の谷　公一会長に御祝辞をいただきました。

組合員の皆様には、次の60周年に向け、変わらぬご協力をお願いいたします。

受賞者の皆様

兵庫県知事表彰（役員経験者）

香美町村岡区味取　山居　茂
新温泉町対田　田中　滿穂

兵庫県森林組合連合会会長表彰（総代）

香美町村岡区本町　梅津敏之助
村岡区大笹　西村　清志
村岡区長須　丸山　滿行
小代区野間谷　吉田　正秀
新温泉町芦屋　松岡　秀明
田井　倉田與一郎
中辻　西澤　治昭

組合長表彰（森林技術者）

香美町香住区大谷　中川　憲悟
香美町小代区秋岡　森下　克好
香美町小代区平野　太田　芳郎
新温泉町二日市　松葉　茂
新温泉町湯　森川　和哉
養父市八鹿町国木　山之内謙二

おめでとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

北但西部森林組合奨学金給付事業の創設（令和3年10月より実施）

この度、当森林組合への就業希望者が、**林業大学校**等で安心して研修に専念できるよう**月額3万円（最長2年間）の奨学金**を給付する「北但西部森林組合奨学金給付事業」を創設しました。

この事業が、当森林組合の将来を担う若者の就職の増加につながることを期待しています。

北但西部森林組合奨学金給付事業

【奨学金対象の研修期間】

林業大学校（兵庫県立森林大学校等）での研修

・座学と実地研修等を実施

1　研修期間が概ね1年かつ概ね1,200時間以上

2　研修期間を通して林業への就業に必要な技術や知識を習得 等

【対象者の要件】

1 北但西部森林組合に就業し、将来的にはその中核を担う強い意欲を有していること。

2 就業予定時の年齢が原則40歳未満であること。

現場を指揮

【将来の姿】

1 森林組合経営の中核を担う

【対象者の義務】

（違反した場合は給付金の一部又は全額返還）

1 研修終了後2か月以内に北但西部森林組合へ就業しなかった場合

2 北但西部森林組合への就業を3年間継続しない場合

3 研修を受けなかった場合

4 必要な報告を行わなかった場合

5 虚偽の申請を行った場合　　等

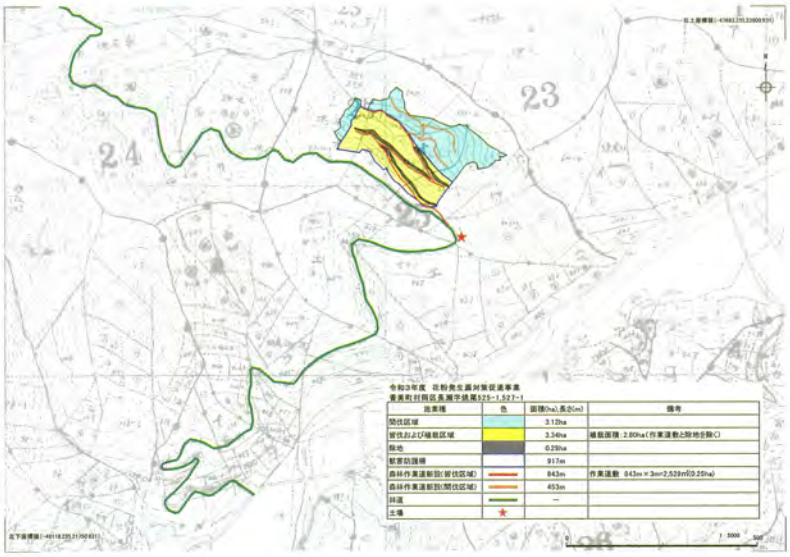
事業地集約化

主伐・再造林事業の紹介

森林資源の成熟化が進み、伐採して利用が可能とされる46年生以上の森林が約7割を占め、10年後には9割となる見込みです。美方郡は全国的に見て林業は後発地であり、現在は搬出間伐を中心として、森林の整備を進めているところです。しかし全国的には、主伐・再造林にシフトしつつあり、今後、事業主体が間伐から主伐になる可能性も見据え、モデル的に施業を実施しました。それでは詳しく事業の紹介をしていきます。

モデル事業地の選定理由

- ◎ 60年生以上の山林を選択 ➡ 一定以上の材積および売り上げを見込める
- ◎ 林道や作業道に接している ➡ 高性能林業機械を使用するため新規作業道の開設が必須
- ◎ 隣接地で搬出間伐ができる場所 ➡ 主伐との費用の比較



施工方法

◎ 森林作業道の開設	➡	地山の勾配が急な為、必要最小限の路線設計
◎ 高性能林業機械の活用	➡	主伐か搬出間伐かの違いだけで同じシステムで搬出 大径木が多いのでプロセッサでの造材が出来ないためチェーンソーでの造材が多かった
◎ グラップルで枝葉の集積	➡	作業道沿いにある枝葉を重機で集積し、地拵を行った
◎ 森林作業道の修繕	➡	集材直後でも車が走行できるように修繕し、車輌での苗木などの資材運搬を実施
◎ 耐雪かつ確実な獣害防護柵	➡	耐雪ポールを使用し、支柱間隔を短く設置 シカの生息数が多い地域の為、全周スカートネットを設置し潜り込みを防ぐ
◎ 少花粉スギのコンテナ苗を植栽	➡	管内で生産された少花粉スギを使用
◎ 翌年以降5～10年間防護柵の管理、下刈を実施	➡	保育費用を先に預かることで、確実な成林を目指す

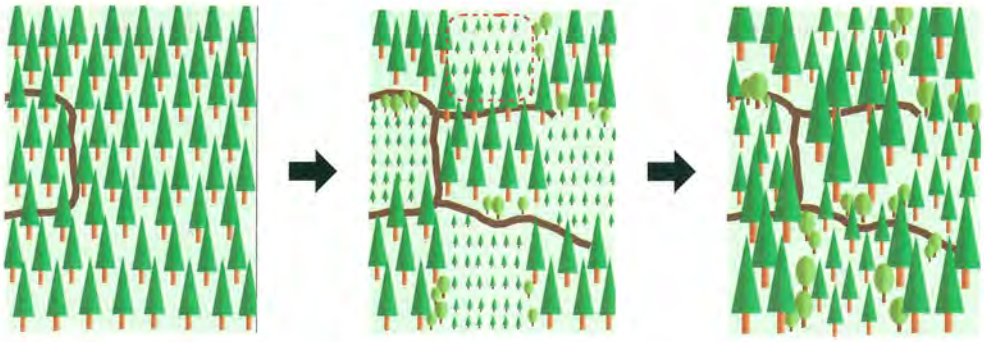
最後に

主伐・再造林は循環型林業を進めていく上で避けては通れないが、伐採地の裸地化や山地災害の発生は絶対にあってはなりません。今後、主伐・再造林による循環型林業の手法を確立するとともに、組合員の所有山林を環境的にも経済的にも循環させることが森林組合の大きな責務であります。

森林整備センターでは「育成複層林」の造成を進めています

従来の林業は、植林し間伐を進め伐期を迎えると一斉に主伐をするという方式で行われてきました。しかし最近では森林整備の多様化のもと、従来のように一斉に伐採するのではなく小面積で分散して実施し、そこに新たに苗木を植え育成していく方式が推奨されてきています。このようなやり方を「育成複層林」といいます。

森林整備センター(※1)では、水源涵養や土砂の流出防止等に係る公益的機能を持続的かつ高度に発揮するため、群状又は帯状の育成複層林誘導伐の実施により複数の樹冠層を有する育成複層林の造成(※2)を積極的に推進しています。



育成複層林施業では大きな木を伐採しても小さな木が残り、常に山が緑に覆われているため、森林のもつ公益的機能を維持させることができます。

森林を健全な状態で維持し、資源を循環させ、災害に強い森林を育成します。

※1：農林水産省所轄の国立研究開発法人森林研究・整備機構の一部局。(旧 緑資源公団・緑資源機構)

※2：育成複層林誘導伐を実施し育成複層林を造成するためには［ ①森林整備センター契約地であること ②契約当事者全員の合意の上、分収造林契約の変更（契約の存続期間及び地上権の延長など）が必要 ③「水源複層林整備事業の実施に関する覚書」を締結すること ］が条件となります。

SDGsへの貢献

SDGｓという言葉を皆さんご存じですか。SDGｓは【持続可能な開発目標】と訳され、気候変動や自然災害等の課題が世界各地で深刻になる中で近年関心が高まっています。実は、森林・林業・木材産業は、SDGｓの達成に大いに貢献しているのです。

森林は、人類にとってとても重要であり、地球にとっては肺の役目を果たし、空気を浄化して私たちの呼吸に不可欠な酸素を供給しています。また、気候変動の抑止においても森林は極めて重要な資源であり、環境に対して生じうる最悪の影響を避けるために必要な排出量削減のかなりの部分を担うとされています。

私たちは、カーボンニュートラルへ向けた脱炭素社会実現のために、森林整備事業などによって森林保全に寄与する取組みに貢献いたします。

我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係

○ 森林そのものが様々なSDGsに貢献。さらに森林資源・森林空間の利用を通じ、様々なSDGsに貢献。
○ これらの利用は、林業・木材産業を通じ、森林の整備・保全に還元されるという大きな循環につながっている。

森林(もり)は、心身を豊かにしてくれる存在であり、その森林(もり)の木を伐って苗木を植えて育てていくこの循環する森林(もり)づくりを行うことで、人も地球環境も豊かにし森林(もり)の価値を未来に活かす為に、

【持続可能な循環型林業経営】を目指します。